

3 都市の自治

- ・西ヨーロッパの自治都市は、周囲を城壁で囲み、市参事会による自治を行った。
- ・「」といわれ、都市に逃れてくる農奴もいた。
- ・都市の自治を行っていたのは、()と呼ばれる同業組合であった。

- ・最初は貿易を行っている大商人の()が政治を独占していた。
→これに対して手工業者は、()を結成して商人ギルドと対抗した。
※この対立を()という。
- ・この同職ギルドには、正式な構成員である親方以外に、職人・徒弟という厳しい上下関係や制度があり、また加盟せずに自由な商売を行うことは禁止されていた。
- ・都市の自治が認められる一方、金融業を行う()への迫害も行われた。



ハンザ都市ブレーメン

ハンザ同盟の有力都市ブレーメンは、帝国都市として左の市庁舎を中心に自治を行っていた。現在のドイツにある。



ブレーメンの音楽隊

ブレーメンといえば、何と言ってもグリム童話のブレーメンの音楽隊でよく知られる。ただし音楽隊もギルドであった。



徒弟制度

ギルドにおける徒弟制度は、品質の維持や技術の伝承に貢献した。しかし新しい技術の開発を阻害する面もあった。

- ・都市の有力者の中には、政治や文化に影響力を持つ者もあらわれた。
()…中部イタリアの()を本拠地とする金融業者。
多くの芸術家を保護したことでも知られる。
- ()…南ドイツの()を本拠地とする金融業者。
特にヨーロッパの銀を支配し、皇帝選挙にも影響を与えた。



コジモ=デ=メディチ



ロレンツォ=デ=メディチ

メディチ家は、祖父のコジモの時代に大いに発展した。孫のロレンツォは、ポッティチェリやミケランジェロを保護し、ルネサンスで大きな役割を果たした。



フッガー家



カール5世

カール5世が神聖ローマ皇帝になれたのは、左のヤコブ=フッガーが資金援助をしたためである。しかし大航海時代が本格化すると、徐々に没落していった。

4 西ヨーロッパ封建社会の崩壊

- ・農村社会では、土地のすべてを農民保有地にして、生産物を地代として納めさせる純粋荘園（地代荘園）が広まっていた。

- ・貨幣経済が浸透すると、地代は生産物から貨幣へと変わっていった（貨幣地代）。
→13世紀以降、貨幣をたくわえて経済力を持った農奴の一部が解放されて自分の土地を持つ自営農民になるなど、()が進んでいった。
※イギリスの()が有名である。
→これは荘園の崩壊につながり、荘園を持っていた諸侯や教会などの領主が衰退していくことを意味した（封建制の危機）。